

新春恒例

くるめふるさと大使

# パントビスコの間違い探し



Pantovisco パントビスコ  
SNSの総フォロワー数が80万人を超えるクリエイター。久留米市出身



A



B



正解者の中から抽選で5人に図書カードを差し上げます

上のAとBのイラストを見比べてください。間違いは全部でいくつあるでしょう。次の㉠~㉣から選んでください。印刷上のにじみなどは含みません。

㉠ 3   ㉡ 4   ㉢ 5

【申込締切】1月22日(月) (必着)

【申込方法】答え、住所、氏名、年齢、電話番号、紙面への要望や意見をはがき、メール、電子申請で連絡。複数の応募は不可。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます

◎広報戦略課 (〒830・8520 住所記入不要、  
☐ kouhou@city.kurume.lg.jp)



シリーズ 今、気づき、じんけん

## 共に生きる 35

# 若者の価値観にチャンネルを合わせる

久留米市は、若者のための相談窓口「みらくる」を開設しています。孤独感や将来への不安など寄せられる内容はさまざま。みらくるの相談業務のアドバイザーであるNPO法人「スチューデント・サポート・フェイス」の谷口仁史さんに聞きました。

### 家庭に関わってこそ見える真実

私はNPOの代表として、家庭や学校に居場所がない子どもや、社会で孤立している若者を支援しています。大学生の時に訪問型の学習ボランティアを始め、卒業後の平成15(2003)年に現団体を設立。「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない」を理念に、これまで68万件以上の相談に応じてきました。

私が勉強を教えていたある高校生は、温かい家庭に恵まれているように見えたのに、学校で暴れる傾向がありました。何度も家を訪れるうちに、勉強に集中できない環境があることが見えてきました。実は、親から日常的に暴力を受けていたのです。本人への関わり方について親

「必ず支えてくれる」と信じてもらうことが大切と話す谷口さん



認定特定非営利活動法人  
スチューデント・サポート

特定非営利活動法人  
日本アウトリーチ協会

特定非営利活動法人  
全国若者支援ネ



谷口仁史さん

佐賀を拠点に相談支援を行う認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイスの代表理事。各種相談事業を受託し、多職種で子ども・若者を支援する

と話し合うと、次第に生活が落ち着き、学力も向上してきました。家庭に関わってこそ見える真実があると痛感しました。

### 「甘え」と決めつけることが孤立を生む

登校しない人やひきこもっている人に、本人の「甘え」「怠け」だとする考えがまだあります。自分の価値観をもとに、善かれと思った助言が、かえって本人や家族を孤立させ、社会から排除することも。本当は、親の病気や家庭内暴力、交友トラブルなど本人だけでは解決できないことが、ひきこもりの要因になっていることがあります。それを聞き取るには、「この人だったら分かってくれるかもしれない」と思ってもらえるよう、本人の価値観を尊重しながら声を掛ける。つまり、チャンネルを合わせる大切。彼らがどんな事でもつまづき、何に興味関心があるのかを知ることで少しずつ距離が縮まります。

### 背景を想像することから

若者に関わろうとすると、最初は拒絶されることがあります。でも、その背景には何か理由があるかもしれないと想像すると、声の掛け方が違ってきますよね。支えられ、人への信頼を取り戻した若者たちは、支える側になっていきます。つながりが循環する社会を未来に残していきたいですね。

◎青少年育成課

(☎0942・35・3806、FAX0942・34・9001)